

【範囲】

西田幾多郎全集 4 巻 284 頁 8 行目~285 頁 5 行目

【キーワード又はキーセンテンス】

而してその極、主語と述語との対立をも超越して真の無の場所に到る時、それが自己自身を見る直観となる。(284 頁 10 行目~11 行目)

【考察及び問い】

キーセンテンスには主語がありませんが、直前に「意志が」とありますので「而してその述語方向の彼方の極、主語と述語との対立をも超越して真の無の場所(=極)に意志が到る時、意志が真の無の場所において自己自身を見る直観となる。」と下線部を補い、「それ」=真の場所における意志=自己自身を見る直観、と考えました。この「自己」とは何でしょうか。「自己」=「自己自身を見る直観」という無限仕掛けがある気がします。